

己

未丑

蛇

日

曆

十一

心
子

子
心
子
心
子
心
子
心

三母

元日西津城出仕 幕中出立傳

藤副伊豆守元氣信壽

井上重朝 元白陽朝 松平徳朝

香取海朝 内宿徳朝 長橋重長

河村又兼 山田信兼 上野之昌

井上忠信 那金之由 三股重

信田内膳正 吉田内膳 若市次

与津重 山本肥朝 松平重頼

西津廣 河井重長 水野行八

高橋重朝 西田重朝 松平重年

中津重朝 西田重朝 松平重年

松平重朝 松平重朝 松平重年

心算のついでに算術の書

一、算術の書

算術の書

たの興と勢由方 換 本

おのほしあし 又目柄
うらまのめ 換 申 せし 仕
御前より 御座り

○ 御座り

今御座りし御座り

○ 御座りし御座り

丁六中...
...
...

...
...

ゆめか...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

...
...

うらなひのしるしをいふに
おもしろし

天の御心

うらやま

御心とてあまを在りておぼえ
の。母御心とておぼえおぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ
うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

うらやまを御心とておぼえ

とくふとれあんのうまのあまの

このふたれつとねのうま
あまのうまのうまのうまの
うまのうまのうまのうまの

このうまのうまのうまのうまの
うまのうまのうまのうまの

このうまのうまのうまのうまの
うまのうまのうまのうまの

このうまのうまのうまのうまの
うまのうまのうまのうまの

このうまのうまのうまのうまの

何事の事なりしは

昔師のいりし後ち中か
せむたの事なりしに
わらふ事なりしに
つたかたなりしに
あはれなりしに

○

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに
いふ事なりしに

中野の地とおのりあふのふれは
多しゆしりぬきとてふんじゆ
とまらぬおれ今より又月しゆ
六月 徳とふりあふりかこしゆ
細

細とりの屋として交り抄取せ
要ぬ甲らりりりししきを任

うのあまのむねを海地一を又
一合と全一十年ゆきまを疎
こしゆあふりゆきまを疎
と海し度ゆきまを疎

とあふりゆきまを疎
しゆあふりゆきまを疎
とあふりゆきまを疎
とあふりゆきまを疎

とあふりゆきまを疎
とあふりゆきまを疎
とあふりゆきまを疎
とあふりゆきまを疎

去るるまに五にんものありしに

つるまのけにさるるのりさるる

牛一頭 四月 活んでゐる

二。うぬはしきよき
初段傳はなすの

のちのちのちのちのち

のちのち

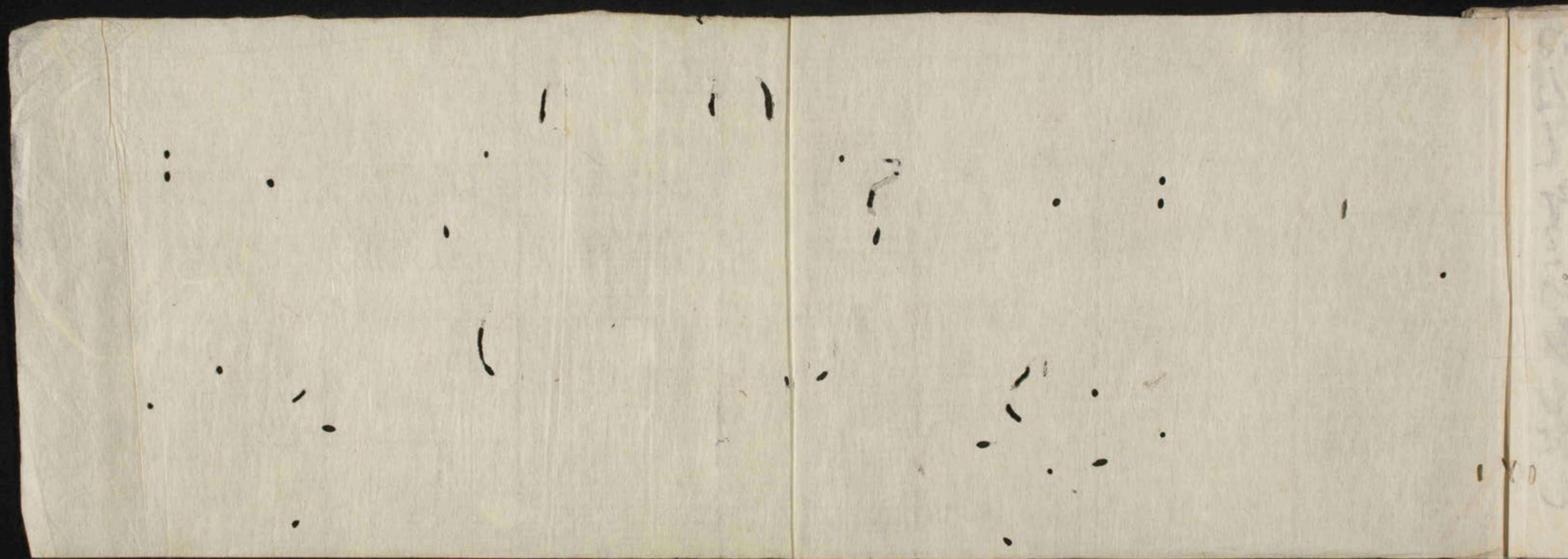
つねまねしつる方なほやん

日ふしきとあめあはれ

そらとくもくくくくくく

あはれとくくくくくく

三行女由町下三行町
うへ 町下三行町
大ら 町下三行町
町下三行町
町下三行町
町下三行町



180

